

やまなし森林100選

櫛形山

実施日 2015年6月28日(日)
 天候 曇り・晴れ
 リーダー 渋谷 京子
 参加者 涌井良明、島本陳重、渋谷京子、伊藤久雄、徳山敬子、滝沢きよの、浜田優美子 計7名
 費用 電車(立川起算)3,320円 タクシー代一人3,330円
 タイム 中尾根櫛形山林道(10:04)休(10:40~10:45)祠頭(11:10~20)分岐(11:52)櫛形山(12:09~奥仙重往復)昼食(12:30~13:00)櫛形山(13:10~15)裸山(13:43~48)アヤマ群生地(14:15~40)北尾根展望台(15:33)

3日前の予報では土日共雨マーク、相木村では連日雷注意報も出ていた為やむなく中止。その後持ち直したので日曜に日帰り山行に踏み切った。南アルプスの前衛「櫛形山」メンバー7名は甲府駅で落ち合いワゴンタクシーで登山口に向かった。右手に甲斐駒、鳳凰三山の堂々たる姿、左端っこに櫛の形をした連なりが見てとれる。

たっぷり1時間を要して標高1450mのスタート地点、櫛形山林道中尾根に到着。空は薄曇りの登山日和、靴ひもを締め直し尾根に取り付く。カラマツ、ナナカマド、ブナの林を登り約1時間で祠が祭られている祠頭に着く。

トイレ併設のほこら小屋脇に1本のアヤマがひっそりと咲いていた。林床にはシダ、山蓀、バイケイソウ足元にはウメバチソウか？可憐な白い花が導いてくれているようだ。

分岐を左に登るとバラボタン平(名に反してまったく無し)さらに登ると櫛形山(2054)の標柱のある峰に立つ。奥に三角点のある奥仙重(2052)と呼ばれるピークに



スタート地点、櫛形山林道中尾根に到着。空は薄曇りの登山日和、靴ひもを締め直し尾根に取り付く。カラマツ、ナナカマド、ブナの林を登り約1時間で祠が祭られている祠頭に着く。



出る。どちらも展望は望めない。戻る途中ビューポイントで昼食タイム。山開きを控えた富士は威風堂々としていて決して飽きることがない。谷からのそよ風は気持ち良く眠気を誘う。そうはいつても寝てられないので先を急ぐ。



再び櫛形山を通過、お決まりの記念写真で「はいポーズ」分岐に戻り裸山へ向かう。マウンテンバイクの3人の青年に行き会う。林道から来たと云うが山頂辺りはまだしも、尾根は急坂で長い。逞しく眩しい彼らに心の中でエールを送った。「やまなしの森林100選・櫛形山の原生林」の案内板通り、広葉樹が多いせい空も広いし、森全体が明るく気持ち良いトレイルが続く。

老齡のカラマツの枝には地衣植物のサルオガセがまわり、深山の霧囲気が漂う。左の丸い峰が裸山、周囲に鹿除けの網が張り巡らされている。から眺めはすこぶる良い。周回コースの南斜面で漸く本日のハイライト、アヤマの群落に出会う。キンポウゲ、ヤマオダマキ、タカネグンナイフウロに混じり鮮やかな紫のアクセントを付けていた。近年、鹿の食害でほぼ全滅・と聞いていただけに皆の喜びようもひとしお、復活に尽力された方々に感謝、感謝です。北へ緩やかな道を行くとアヤマ平に着く。



樹間に開けた平坦な草原にキンポウゲが目一杯に広がり風に揺れている。小屋、トイレも有り、ゆっくりTeaタイムをとって黄色いお花畑に酔いしれた。



いよいよ下りにとりかかる。整備された北尾根登山道は急坂もあるが落ち葉が足に優しい。緩やかな尾根を暫く進むと甲府盆地の眺めが素晴らしい展望台に到着しゴールとなった。それぞれの想いを胸に鐘を鳴らす。タクシーに乗り込み駅へと向かった。

(記・渋谷 京子)

(写真提供・涌井良明/伊藤久雄)